

日本ビジネスシステムズ株式会社 様

Varonis DatAdvantage で業務効率と潜在的リスクを改善 ログ分析・アクセス権限の可視化を一步先へ



リスクマネジメント体制の強化をはかるなか、ファイルサーバのフォルダ構造の見直しに着手した日本ビジネスシステムズ株式会社。Varonis DatAdvantage を導入し、アクセス権限の可視化と適正な運用を実現。将来の構想に取り組む礎を築き、顧客への提案ソリューションとしても展開を始めている。

導入の背景

ファイルのアクセス権限管理が困難に

様々な領域にわたる IT 製品をコンサルティングから構築、運用、サポートまでのワンストップソリューションとして展開する日本ビジネスシステムズ株式会社（以下、JBS）。同社の強みの1つは、「カスタマーファースト」を基本ポリシーに、顧客にソリューションを提供する際には、まず自社導入して価値を見極め、そこで培った知識とノウハウをもとに、より高い品質のサービスを提供することだ。

そんな JBS は 2016 年 2 月、社内ファイルサーバのアクセス権限を最適化するためのツールとして「Varonis DatAdvantage（以下、DatAdvantage）」を導入し成果を上げている。製品導入を指揮した同社品質管理室長の松井 友明氏は、導入に至った背景と課題についてこう話す。

「当社は昨年設立 25 周年を迎え、その間お客様も増え社員数もデータ容量も増えましたが、ファイルサーバの管理構造は大きく変わっていません。次第に、誰がどこにアクセスできるのか、重要なファイルにアクセスしたのは誰か、といったことを把握することが難しくなり、管理が徹底できなくなることで潜在的なリスクが高まっていく状況でした」

JBS 社内のファイルサーバは Windows Server と EMC のストレージで構築されている。情報システム部がグループの社員や取引先を含め約 2,000 名のアカウントを対象に、ファイルやフォルダのアクセス権を管理しているが、大まかにしか把握・管理できてい

なかった。さらに、アクセスログを確認するためにはイベントビューアーなどを使って手作業で確認する必要があった。こうしたログ分析に関する課題について、同社 業務本部 情報システム部 IT サービス課長の稲葉 祥紀氏はこう話す。

「誰がいつアクセスしたか、不要なファイルは何か、アクセス権が正しく付与されているか、などをチェックしようとすると、膨大な手間と時間が掛かるのです。特に、毎月発生するファイルやフォルダのアクセス権の管理作業はほぼ限界に達していました」

JBS では 2005 年に ISMS 認証（ISO / IEC 27001）を、2016 年にプライバシーマーク（JIS Q 15001）をそれぞれ取得し、2016 年からは社内にはリスクマネジメント委員会を設け、情報資産や顧客情報の管理を徹底していく体制を整備した。その一環として、潜在的なリスクを排除するためにファイルサーバ管理に本格的に取り組むことになった。そこで、アクセス権管理に最適な製品として選ばれたのが DatAdvantage だったのだ。

導入の経緯と選定理由

ログ管理だけができるツールから一步進んだ、「アクセス権限の最適化」が可能

松井氏は、DatAdvantage を採用した経緯について、「もともとログ管理製品を探していたが、DatAdvantage はログ管理機能も優れている上、アクセス権限の可視化ができたという点が高い評価を得ました。そうすることで、業務時間の短縮やリスクマ

導入の課題

- 長年のファイルサーバ運用でファイルやフォルダ構造の把握が困難に
- アクセス権の把握が難しくなり権限付与や再設定作業の負荷が増大
- セキュリティ面で潜在的なリスクが増大

導入のメリット

- ファイルサーバのログとアクセス権を網羅的に把握できるようになった
- ログ分析とアクセス権を可視化してファイルサーバの効率的な運用が可能になった
- 将来のあるべき姿に向けてファイルサーバの現状を適切に把握できるようになった
- 自社ソリューション提供のための運用ノウハウを蓄積できるようになった



品質管理室長
松井 友明氏



業務本部 情報システム部
IT サービス課長
稲葉 祥紀氏



業務本部 情報システム部
IT サービス課
前原 貴光氏

ネジメントができると考えたからです」と語る。自社導入するにあたり、アクセス権限の適正な運用ができることを中心に製品選定にあたった。当時の導入予算上、他社製の安い製品も検討にあがっていたが、機能がログ管理のみと絞られていたため、アクセス権限の可視化ができ、コストメリットの高いDatAdvantageが最終的に選定されたのだった。

「ファイルサーバは、ユーザーや役職、プロジェクト、取引先、顧客など、様々な単位でフォルダにアクセス権が付与されています。あまりに複雑になったため、フォルダ構造を少し変えただけで、監視システムが特定のファイルやフォルダを認識しなくなることすらありました。監査やリスクマネジメントの観点からは、高いアクセス権が必要な重要なファイルがどこにあるのか、ある特定のユーザーにはどんなアクセス権限が付与されているのかなどを素早く確認する必要があります」（松井氏）

また、アクセス権限の最適化に加え、ファイルサーバ管理の効率化に繋がるかどうか検討課題だった。状況の把握が困難になったファイルサーバは、必要なものと不必要なものが混在し、不要なものを取り除くことができれば、限りのあるスペースを効率よく利用できるようになる。稲葉氏は、情報システム部の立場から次のように話を続ける。

「実際にユーザーに不要なデータを削除してもらうには『1年間のアクセスがほとんどない』といった根拠をもっていく必要があります。膨大なアクセスログから必要なアクセス権限の情報を抽出し、スムーズに次のアクションに繋がられるかどうか重要です。年々ファイルサイズが大きくなる状況を見ると、ファイルサーバの効率的な運用を行うことはコスト面で大きな意味があります」（稲葉氏）

さらに、ポイントになったのは、現場の担当者が操作しやすく、すぐに管理できるかどうかだ。ログの集計や分析に携わっている同課の前原貴光氏は、使い勝手によってどのくらい業務に差が出るかについて、次のように説明する。「ツールを使わない場合、フォルダ階層を1つひとつ移動して画面をチェックしていく必要があります。実際、アクセス権限を調査する際に、こうした確認作業だけで10日から2週間も掛かったことがあります。ユーザー単位、役職単位でアクセス権の一覧や、使っていないファイルの一覧などがすぐに確認できれば業務効率は

劇的に向上します」

このように、ユーザーが実際に抱える課題にきちんと応えられる点でDatAdvantageは最大級の評価を得たという。

導入の効果とメリット

アクセス権管理やリスク管理体制を築く、将来のあるべき姿に向けての素地

導入は、DatAdvantageの販売代理店であるノックスの担当者によるデモ、実環境での検証、本稼働といったスケジュールで進んだ。

デモを見た前原氏は、「正直今までの作業は何だったんだろうと思いました。ユーザー・部門単位でアクセス権の抽出結果を見ることができ、色分けされて表示されるので直感的で分かりやすい。導入も簡単でインストーラーを起動し一部の設定をするだけです。その後は、DatAdvantageが自動で必要な情報を収集してくれるので、これだけ簡単に導入でき運用が楽なことは非常に大きなメリットです」と強調する。

実際、これまでの分析作業がほぼ一瞬で済むようになるなど、運用負荷の軽減という点で大きな成果を生んでいる。加えて稲葉氏は、導入に際しての追加コストが掛からないこともメリットだと話す。

「動作が軽く、余分なリソースを消費しません。そのため、導入に際して新しいハードウェアの購入やメモリ、CPUの増強をする必要がないのです。実際、当社の環境では、既存マシンの仮想環境をそのまま活かすことができました」（稲葉氏）

さらに松井氏は、導入の最大のメリットとして、全社のアクセス権限運用ルール見直しを行うための環境を整備できたことを挙げる。

「現状の課題を把握することがようやくできるようになりました。これまで、ISMSにおける情報資産の洗い出しということで、フォルダ2階層までの棚卸しは行っていました。ただ、それ以下の部分は複雑化が進みすぎて対処できないという状況でした。それが、フォルダ、ユーザー、アクセス権の全てにおいて完全に把握することができるようになりました」（松井氏）

また、ユーザーの利用動向もすぐに把握できるようになった。ファイルサーバには開発用の仮想マシンイメージの保存など、突然数10GBが消費されるような利用シーンもある。他にも、普段アクセスのないファイルに突然大量のアクセスが発生するといった不正アクセスの想定もできる。社内でどんな問題が発生しているか、すぐに特定できることは、インシデントレスポンスの点からも重要だ。

松井氏は「正しいアクセス権管理やリスク管理体制を築き将来のあるべき姿に向けての素地が整った意味は大きいです」と重ねて強調する。

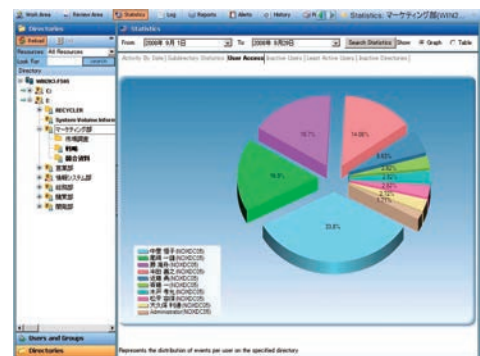
今後の展開と製品への期待

JBSとDatAdvantageで付加価値の高い提案を実現

今後の展開については、DatAdvantageを自社顧客への提案ソリューションとして展開するためのノウハウを蓄積することだという。

「DatAdvantageは多機能であり、テンプレートも豊富なため、何をどう使っていけばいいか迷うこともありました。そのような時は、ノックスのサポートを最大限活用させて頂きました。また、既にお客様の要件に合わせて提案するソリューションの一部で提供を行っており、来年以降は、当社の運用実績を踏まえたより客観的で付加価値の高い提案ができるようになります」（松井氏）

JBSは今後、その社内のノウハウを使って、ユーザーの課題を解決することに力を入れていくことになる。JBSとDatAdvantage、この先進的な両者の組み合わせがログ分析やアクセス権限管理の分野を一步先へ進めていく。



フォルダ毎のユーザーアクセス実績を基にデータオーナーを確認

事例協力

JBS 日本ビジネスシステムズ株式会社

〒105-6316
東京都港区虎ノ門1-23-1 虎ノ門ヒルズ森タワー 16F
URL: <https://www.jbs.co.jp/>

1990年10月設立。売上高(連結)289億円(2015年9月期)。社員数880(単体)、1,818(グループ全体)。マイクロソフト製品の提供に大きな強みにもつSler。常に「お客様にとって最良のシステム・最善のサービス」を提供する「カスタマーファースト」を掲げる。

問い合わせ

NOX ノックス株式会社

本社 〒152-0023 東京都目黒区八雲 2-23-13
TEL: 03-5731-5551 FAX: 03-5731-5552
西日本支社 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田 1-8-17
大阪第一生命ビルディング 15F
TEL: 06-6147-2395 FAX: 06-6147-2396
MAIL: varonis@nox.co.jp
URL: <http://www.nox.co.jp/index.shtml>